

# 新型コロナ禍における学生の意識の考察

～ 学生生活実態調査より ～

坂 元 洋一郎\*  
本 田 弥 生†

## 1. はじめに

新型コロナウイルスの発生が確認されたのは、元号が「平成」から「令和」になり、東京オリンピック開催を間近に控え、新しい時代の幕開けと誰もがそう感じていた頃であった。それから1年も経たないうちに、新型コロナ禍は全世界に広がった。日本でもその感染症への対応として、令和2年2月25日北海道での緊急事態宣言の発出を発端に、対象区域が全国に拡大され、各学校は、臨時休業せざるを得ない状況となり、結果、新学期を迎えても休校は継続され、児童・生徒が登校することもなく、授業も行われることはなかった。高等教育機関の大学等でも、ほぼ例外なく、休校となった。その後、ワクチン接種の奨励、重症化リスクの軽減などの医療体制の強化対策により、緊急事態宣言は解除された。

しかしながら、ウイルスの変異株の出現により、新型コロナ感染者数の増加により、第2波、第3波が発生し、緊急事態宣言は発出・解除を繰り返すこととなる。こうした状況下で、教育機関における学校行事は、縮小実施・中止という決定がなされた。当然、生徒・児童・学生にとっては、学校行事は、学校生活における大きな成長の機会であり、それらの開催の縮小・中止は、成長過程にかなり影響を与えたと思われる。

また、多くのガイダンスはWEB上で開催されることとなり、さらには、授業がオンラインで実施されるなど、新型コロナ禍以前の教育環境とは、大きく変化することとなった。そもそも多くの学校は、通信制ではないので、情報通信環境が整っていないばかりか、学習者側では端末機器の整備も完全ではなかった。教員側では、オンライン授業のために必要なコンテンツの分析、授業の設計、授業内容や教材の

\* 長崎県立大学地域創造学部実践経済学科

† 広島市立五日市南中学校

開発など、様々な要素について準備が必要であることなど、その対応に追われた。また、対面授業では、学習者の反応や学習の習得状況を確認しながら、適切な助言や内容変更などを施すことが可能であるが、オンライン授業では困難である。このような状況であるので、学生の大学生活に大きな影響を与えていることは間違いない。

本稿では、学生の大学生活について、不自由な生活を強いられた新型コロナ禍での調査であることを念頭に、学生生活実態調査の結果から、分析・考察・記述し、その知見を述べる。

## 2. 学生生活調査

新型コロナ禍以前より、学生を対象とした調査は、さまざまな機関で実施されている。また、各大学でも、学生の生活状況や生活意識を把握し、大学における学生支援の充実を図る目的で、学生生活実態調査として実施されている。例えば、長崎県立大学でも入試広報の改善及び教育内容の充実を図る目的で毎年4月1日から4月30日の期間に1年生を対象として「入学等に関する調査」が実施されている。今年度も実施されており、学生数754名に対し、回収数551枚と回収率73.1%となっている。

大規模に実施されている調査では、文部科学省が実施している「学生生活調査」が挙げられる。この「学生生活調査」は、平成16年4月に日本学生支援機構（JASSO）が設立されたことに伴い、文部科学省からその業務の管理は、JASSOに移されたが、大学、短期大学及び大学院の学生を対象として、隔年で実施されている。調査の方法は、大学学部・短期大学・大学院の学生に分別、また昼間部・夜間部に分別、国立・公立・私立に分別し、それぞれに抽出率を定め、標本数を算出し、各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて実施されている。

「学生生活調査」は、学生の生活状況を調査し、学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的としているので、その調査項目は、学生の生活状況として1週間の生活時間の内訳、不安や悩み、学生の経済状況（奨学金、アルバイト、それらの用途）、家庭の状況（家計支持者、職業）、大学での授業・学習、成績などである。

ここでは、学生の不安や悩みについて、「学生生活調査」の結果を、新型コロナウイルス発生前である平成30年11月に実施された調査と、新型コロナウイルス禍で休校・学校行事中止、縮小を体験した後である令和2年11月に実施された調査とを

比較して考察しよう。調査項目・設問は下記のとおりである。

調査項目：Ⅱ. 学生生活状況について

設問（11）「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間について  
（それぞれの項目について、あてはまる番号に1つ○）」

項目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学の授業 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学の授業の予習・復習、課題など	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 卒業論文・卒業研究	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 大学の授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 部活動・サークル活動	1	2	3	4	5	6	7	8
6. アルバイト・定職	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

設問（11）に対して、以下のような調査結果が得られている。

区分		0時間	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業 (オンライン授業の視聴時間を含む)	4.2	19.3	14.3	17.2	21.0	13.8	5.5	4.2	0.4	100.0
	大学の授業の予習・復習、課題など	7.8	40.8	26.3	12.5	5.8	3.1	1.3	1.9	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	73.1	11.6	4.8	2.8	2.0	1.4	0.9	2.6	0.8	100.0
	うち3年のみ	71.9	21.9	3.6	1.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8	100.0
	うち4年のみ	19.0	25.0	16.5	10.9	8.2	5.5	3.6	10.8	0.5	100.0
	大学の授業以外の学習	41.4	38.1	10.2	3.9	2.1	1.1	0.5	1.8	0.9	100.0
	部活動・サークル活動	61.6	18.2	7.8	5.1	2.9	1.9	0.9	1.1	0.5	100.0
	アルバイト・定職	27.9	9.9	17.3	19.7	14.7	5.9	1.9	2.1	0.5	100.0
	就職活動	80.1	12.9	3.7	1.3	0.6	0.2	0.1	0.3	0.6	100.0
	うち3年のみ	51.2	34.4	8.5	3.2	1.2	0.4	0.3	0.4	0.5	100.0
	うち4年のみ	71.1	16.0	6.8	2.2	1.5	0.7	0.3	0.7	0.8	100.0
	娯楽・交友	4.0	28.0	27.0	17.5	9.5	4.8	2.1	6.4	0.7	100.0

出典：「令和2年度学生生活調査結果」（日本学生支援機構）

(参考) 平成30年度調査

[単位:%]

区分		0時間	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31時間以上	無回答	計
大学 ( 昼間部 )	大学の授業	3.9	14.1	11.6	15.7	22.5	17.9	7.7	6.0	0.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	17.5	54.0	16.6	6.4	2.3	1.1	0.6	0.9	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	70.8	11.8	5.1	3.2	2.2	1.6	1.0	3.7	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	43.2	37.7	9.8	3.8	1.7	0.9	0.6	1.5	0.8	100.0
	部活動・サークル活動	48.0	26.3	12.1	5.8	3.3	1.8	0.9	1.4	0.5	100.0
	アルバイト・定職	21.7	10.6	17.0	20.6	16.8	7.5	2.6	2.7	0.4	100.0
	就職活動	82.3	11.9	2.9	1.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	100.0
	娯楽・交友	2.3	27.9	28.8	17.7	9.4	4.8	2.0	6.4	0.7	100.0

(参考) 平成28年度調査

[単位:%]

区分		0時間	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31時間以上	無回答	計
大学 ( 昼間部 )	大学の授業	6.1	14.5	10.7	16.2	22.2	16.8	6.6	6.2	0.7	100.0
	大学の授業の予習・復習など	20.8	51.9	15.9	5.7	2.1	1.2	0.6	1.1	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	72.7	10.6	4.8	2.4	1.9	1.6	1.2	4.3	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	45.4	35.6	9.1	3.4	1.8	1.1	0.6	2.1	0.9	100.0
	部活動・サークル活動	48.4	25.6	11.8	5.7	3.5	1.7	1.0	1.6	0.6	100.0
	アルバイト・定職	28.2	10.2	16.4	18.5	14.9	6.4	2.5	2.5	0.6	100.0
	就職活動	88.0	8.3	1.8	0.8	0.3	0.1	0.0	0.1	0.6	100.0
	娯楽・交友	3.5	29.4	29.0	16.5	9.1	4.1	1.8	5.5	1.0	100.0

1週間の時間で「大学の授業」を見てみると令和2年度、平成30年度、平成28年度を比べてみても最も多い時間帯がどれも16~20時間であり、21.0%、22.5%、22.2%となっていて、新型コロナ対策としてのオンライン授業の時間的影響はあまりないことが分かる。

一方、「大学の授業の予習・復習・課題など」において、平成30年度、平成28年度では0時間が17.5%、20.8%と、令和2年度では7.8%と前回比▲9.7%となっており、その分が6~10時間の26.3%前回比+9.7%へシフトしたことが分かる。これは、オンライン授業の場合は、レポート課題が与えられることが多く、そのレポート作成の時間が必要であり、また、オンライン授業に学生が対応していくために予習・復習がなされた時間ではないかと考えられる。ただ、オンライン授業数が多くなると、それだけレポート作成数が高み、11時間以上を費やしている学生の割合がかなり増加しているのがわかる。所謂、「レポート地獄」と揶揄された状況が結果として表れたものであろう。

「部活動・サークル活動」では、令和2年度0時間が61.6%と前回比13.6%増えており、大学から新型コロナ対策としての活動自粛要請に基づき、時間短縮・休止せざるを得なくなったことが窺える。

「アルバイト・定職」は、長い時間を割いている学生が減少していることがわかり、「娯楽・交友」などの人間的生活に直結するものは、新型コロナ禍であってもそれなりの対応をしていると考えられる。

設問 (13) 「いまあなたには次のような不安や悩みはありますか  
(それぞれの項目について、あてはまる番号に1つ○)」

1. 授業の内容についていけない
2. 卒業後にやりたいことがみつからない
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ
4. 経済的に勉強を続けることが難しい
5. 学内の友人関係の悩みがある

N-1表 設置者別・学生の不安や悩み(大学・昼間部)

(単位:%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていけない	国立	4.5	27.9	39.3	28.3	-	100.0
	公立	3.1	27.3	41.4	28.1	0.1	100.0
	私立	4.3	28.8	40.9	25.9	0.1	100.0
	平均	4.3	28.6	40.7	26.4	0.1	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立	12.9	28.3	30.0	28.8	-	100.0
	公立	12.5	28.4	30.3	28.7	0.1	100.0
	私立	14.0	28.3	28.4	29.2	0.1	100.0
	平均	13.7	28.3	28.8	29.1	0.0	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立	28.3	38.4	16.2	17.2	-	100.0
	公立	31.6	37.7	14.3	16.4	0.1	100.0
	私立	34.1	37.1	13.8	14.9	0.1	100.0
	平均	33.0	37.4	14.2	15.3	0.1	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立	1.4	9.1	34.6	54.8	0.1	100.0
	公立	1.1	9.3	36.3	53.3	0.0	100.0
	私立	2.1	12.0	38.4	47.5	0.1	100.0
	平均	1.9	11.4	37.6	49.0	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立	3.1	11.7	33.4	51.8	-	100.0
	公立	2.3	11.8	34.4	51.4	0.1	100.0
	私立	2.9	11.4	30.8	54.9	0.0	100.0
	平均	2.9	11.5	31.4	54.2	0.0	100.0

(参考) n=18,016

出典:「令和2年度学生生活調査結果」(日本学生支援機構)

11-1表 設置者別・学生の不安や悩み（大学昼間部）

（単位：％）

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていっていない	国立	4.3	26.6	40.1	29.0	0.0	100.0
	公立	3.5	27.6	41.7	27.0	0.2	100.0
	私立	3.8	27.9	41.5	26.7	0.1	100.0
	平均	3.9	27.7	41.3	27.1	0.1	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立	11.9	27.8	30.2	30.1	0.0	100.0
	公立	12.5	29.2	30.1	28.2	0.1	100.0
	私立	12.9	28.1	28.5	30.5	0.1	100.0
	平均	12.7	28.1	28.9	30.3	0.1	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立	24.0	39.4	17.4	19.1	0.0	100.0
	公立	27.8	38.6	16.0	17.4	0.1	100.0
	私立	30.6	38.0	14.8	16.4	0.1	100.0
	平均	29.4	38.3	15.3	16.9	0.1	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立	1.7	10.5	33.9	53.9	0.0	100.0
	公立	1.9	9.5	36.4	52.1	0.2	100.0
	私立	2.4	11.9	38.2	47.4	0.1	100.0
	平均	2.3	11.5	37.4	48.7	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立	3.0	11.6	37.0	48.4	0.0	100.0
	公立	2.5	13.7	34.9	48.8	0.1	100.0
	私立	3.1	13.0	34.1	49.7	0.0	100.0
	平均	3.0	12.8	34.7	49.5	0.0	100.0

（参考） n=20,086

出典：「平成30年度学生生活調査結果」（日本学生支援機構）

（参考）平成28年度調査

【単位：％】

区 分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
（ 大 学 ） （ 昼 間 部 ）	授業の内容についていっていない	4.3	28.6	41.0	26.0	0.1	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	13.1	28.5	28.4	30.0	0.1	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	32.1	37.2	14.5	16.1	0.1	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	2.5	13.5	38.9	45.0	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	3.4	13.2	36.2	47.1	0.0	100.0

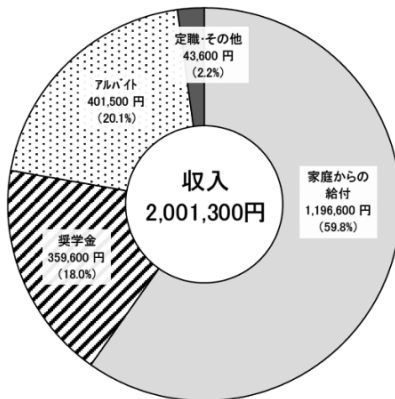
「授業の内容についていっていない」、「卒業後にやりたいことがみつからない」、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」、「経済的に勉強を続けることが難しい」、「学内の友人関係の悩みがある」のすべての区分において、令和2年度、平成30年度、平成28年度とも数値にあまり変化が見られず、新型コロナの影響は少ないものと考えられるが、一方で、学生時代の悩みの多くは、普遍的なものであり、どんな環境であっても、20歳前後の年齢であれば自分の現在・将来への不安を感じていることの表れだとも考えられる。

調査項目：Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

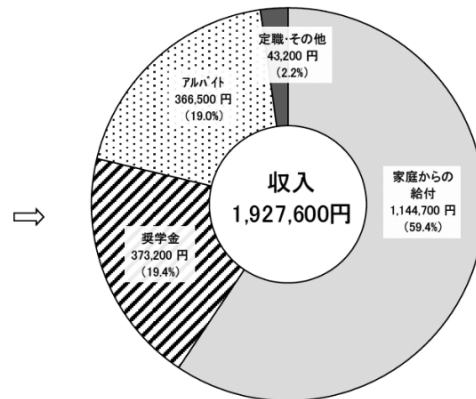
「あなたご自身の経済状態についてお聞きします。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)」

設問 (14) 年間収入額

平成30年度  
【大学(昼間部)】



令和2年度



出典：「令和2年度学生生活調査結果」(日本学生支援機構)

まず、「収入」をみると令和2年度が1,927,600円となり、平成30年度の2,001,300円に比べ73,700円減っている。その要因は「家庭からの給付」と「アルバイト」が令和2年度が1,144,700円、366,500円と平成30年度の1,196,600円、401,500円に比べ51,900円、35,000円と減少していることによる。このことは、明らかに家計やアルバイトの収入面がコロナの影響によって減少したことが分かる。そして、その収入減を補うために「奨学金」が令和2年度373,200円と平成30年度の359,600円より13,600円増えている。しかしながら、収入減は奨学金だけでは補えず、全体として収入が73,700円減っている。このことからすると、やはり、コロナの影響により収入面において家計である親の収入と学生生活の生活費の一部に充てられるアルバイトの収入が減少している。にもかかわらず、奨学金はそれほど増えていないため、トータル的には収入面は減少しており、学生にとっては厳しい状況となっている。

### 3. 学生生活実態調査

JASSOが調査している「学生生活調査」以外にも、「学生生活実態調査」が日本私立大学連盟に加盟する大学の在籍学生を対象に、4年ごとに実施されている。第16回調査(令和3年9月～10月実施)の質問項目については、前回の第15回調査

（平成29年9月～10月実施）からの経年変化などに伴って少し見直しが行われたが、大学生活に関する調査設問内容は大きく変わっていない。この「学生生活実態調査」において、大学生活での興味・関心や大切だと思っていることについて、新型コロナウイルス発生前である平成29年9月～10月に実施された第15回調査と、新型コロナウイルス禍で緊急事態宣言が発令されたり、また下火になり解除されたりという状況を繰り返した後である令和3年9月～10月に実施された第16回調査結果で考察しよう。

この「学生生活実態調査」の結果で注目したいのは、Q25「興味・関心」とQ26「大学生活の中で大切なもの」である。新型コロナウイルスの発生の前後で顕著な違いがみられることであろう。やはり、入学時から、入学式が行われず、外出自粛を余儀なくされ、オンライン授業だけを受講せざるをえなかった大学生活を経験した2年生は、「大学の勉強」に興味・関心が高い割合を示していた。

調査項目：Ⅳ. ライフ（大学生活）

設問：Q25

現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。

（二つまで）

第16回（令和3年9月～10月）調査結果

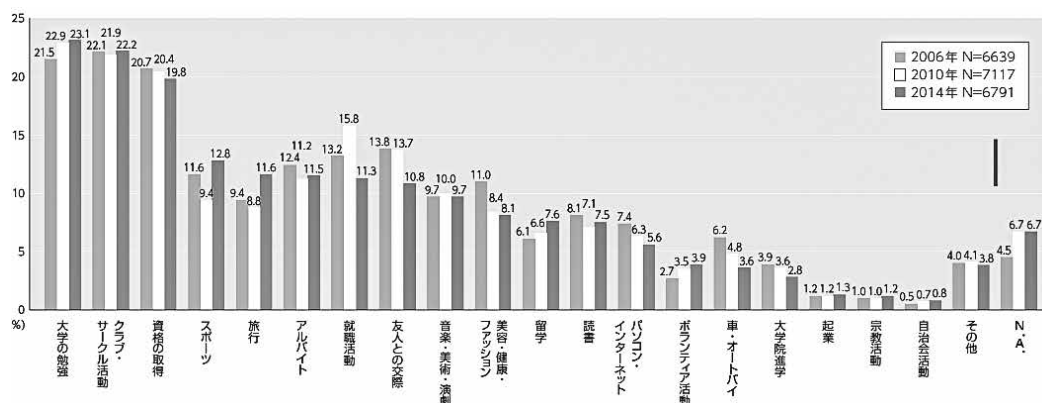
	〔BASE〕	1 大学の勉強	2 資格の取得	3 クラブ・サークルの活動	4 留学	5 ボランティア活動	6 アルバイト	7 自治会・学友会等学生団	8 政治活動	9 宗教活動	10 スポーツの観戦やその他	11 旅行	12 美容・健康・ファッション	13 車・オートバイ	14 パソコン・SNS・インターネット	15 音楽・美術・演劇	16 読書	17 大学院進学	18 就職活動	19 友人との交際	20 起業	21 その他	〔TOTAL〕
全体	1000 20205	38.0 7688	23.6 4763	16.2 3280	3.4 682	2.0 411	23.4 4735	0.6 115	0.2 31	0.3 51	4.1 820	4.0 799	11.8 2378	2.7 543	15.6 3160	9.5 1928	6.6 1332	2.2 444	7.6 1530	10.9 2202	0.5 107	4.7 958	187.9 37957

第15回（平成29年9月～10月）調査結果

	〔BASE〕	1 大学の勉強	2 資格の取得	3 クラブ・サークルの活動	4 留学	5 ボランティア活動	6 アルバイト	7 自治会・学友会活動	8 政治	9 宗教活動	10 スポーツ	11 旅行	12 美容・健康・ファッション	13 車・オートバイ	14 パソコン・SNS・インターネット	15 音楽・美術・演劇	16 読書	17 大学院進学	18 就職活動	19 友人との交際	20 起業	21 その他	〔TOTAL〕
全体	1000 12369	26.0 3213	24.8 3069	21.0 2593	10.8 1341	3.7 462	13.8 1713	0.6 69	1.4 168	0.6 70	8.1 1001	11.8 1464	11.5 1420	3.5 438	11.5 1424	11.9 1474	5.3 657	3.0 365	10.0 1240	9.5 1174	1.0 122	2.7 337	192.5 23814



第12～14回調査結果



新型コロナ発生後の第16回調査において、第1位は「大学の勉強」(38.0%)で、新型コロナ禍前の第15回の第1位(26.0%)より、12%ほど増加しており、それ以前の調査でも「大学の勉強」は21～23%ほどであることを考慮しても、かなり大きい変化がみられ、より高い興味・関心を持っている状況へと学生の意識が変わったことが窺える。また、「アルバイト」に関しては、第16回の23.4%は、第15回までは11～14%ほどであったことと比較して、新型コロナ禍における外出・外食自粛による社会経済の疲弊が、学生の生活を支えるアルバイトに影響を与え、経済的不安もあり、学生の意識が変わったことが表れた結果だといえよう。一方で「クラブ・サークル活動」は16.2%で、前回までの20～22%から興味・関心をもつ学生の割合が減少しており、やはり、新型コロナ禍におけるクラブ・サークルなどの課外活動を自粛させる大学が多くあり、その結果、新入部員の勧誘や大会への出場・発表機会が減少することが相まって、学生の意識から減少したものと思われる。

Q26 大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか。(三つまで)  
第16回(令和3年9月～10月)調査結果

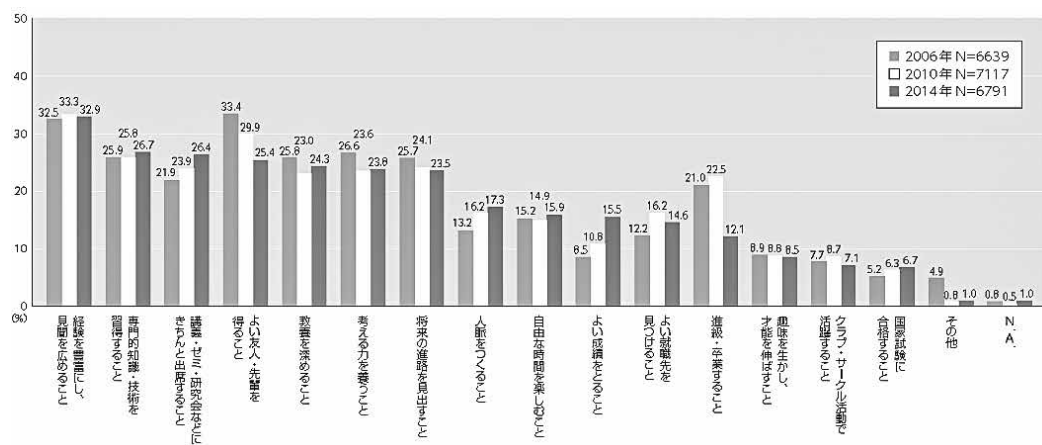
Q26 大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか。(三つまで)

	BASE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	TOTAL
全体	100.0 20205	23.2 4682	51.8 10462	26.9 5433	8.1 1628	21.9 4426	32.0 6471	20.7 4179	23.0 4641	5.5 1106	12.6 2537	6.2 1262	17.7 3573	19.5 3943	11.8 2380	2.5 502	0.7 142	2841 57367

第15回（平成29年9月～10月）調査結果

	【BASE】	1 講義・ゼミ・研究会などに きちんと出席すること	2 よい成績をとること	3 専門的知識・技術を習得す ること	4 教養を深めること	5 経験を豊富にし、見聞を広 めること	6 考える力を養うこと	7 将来の進路を見出すこと	8 進級・卒業すること	9 国家試験に合格すること	10 よい就職先を見つけること	11 趣味を生かし、才能を伸ば すこと	12 自由な時間を楽しむこと	13 よい友人・先輩を得ること	14 人脈をつくること	15 クラブ・サークル活動で活 躍すること	16 その他	【TOTAL】
全体	100.0 12369	26.2 3241	19.2 2379	30.4 3760	25.6 3167	34.9 4321	23.6 2914	25.0 3098	13.6 1683	7.0 867	13.8 1703	7.0 861	16.0 1978	20.6 2546	14.9 1837	4.3 531	0.9 115	283.0 35001

第12～14回調査結果



新型コロナ禍後の調査である第16回（令和3年9月～10月）において、第1位は「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が51.8%で、新型コロナ禍前の調査である第15回、第12～14回では「進級・卒業すること」は13.6%、12.1%、22.5%、21.0%であったので、飛躍的に増加したことがわかる。これは、新型コロナ禍で、オンライン授業が増え、学友との交流が制限され、学生の単位修得・進級・卒業への不安が結果に表れたと考えられる。その他、「専門的知識・技術を習得すること」「経験を豊富にし、見聞を広めること」「将来の進路を見出すこと」「考える力を養うこと」「講義・ゼミ・研究会などにきちんと出席すること」を大切に思っている学生の割合が上位で、これらの事柄への関心度は高く、新型コロナ禍以前とほぼ変わらない。

#### 4. 終わりに

新型コロナウイルスの発生は、その感染症の拡散のスピードも速く、緊急事態宣言の発出による急進的な対応を余儀なくされた。そして、学校の休校、オンライン授業だけの勉学や外出自粛などの期間が学生生活や意識を変化させた。これまで経験したことのない人間らしい生活が送れない時間を過ごしたのだから、学生への影響は自然なことである。

今回の学生生活実態調査の分析により、具体的に新型コロナの影響が表れているものとして、大学生活に関しては「大学の授業の予習・復習・課題など」や「部活動・サークル活動」が顕著である。また、経済的側面において、学生の「収入」の減少は、「家庭からの給付」と「アルバイト」が減っていることが要因となっている。つまり、新型コロナの影響により家計である親の収入と学生生活の生活費の一部に充てられるアルバイトの収入が減少しているにもかかわらず、奨学金ではそれを補えるだけ増えていないため、学生にとっては厳しい状況となっている。また、大学生活での興味・関心や大切だと思っていることでは、「大学の勉強」が前回比12ポイントも上昇した結果に顕著に表れており、オンライン授業だけを受講せざるをえなかった大学生活を経験したことによる影響だと思われる。

一方、「授業の内容についていけない」、「卒業後にやりたいことが見つからない」、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」、「経済的に勉強を続けることが難しい」、「学内の友人関係の悩みがある」という学生の不安や悩みにおいて、新型コロナ禍の前後で調査結果の差異がほとんど見られなかった。これら心の憂いは、新型コロナの状況だけが大きく影響を与えるものではなく、学生が抱える大学生活についての潜在的意識だと考えられる。以上のような視点から、新型コロナの影響は、学生生活に直結する経済状況などに表れることはもとより、大学の勉学においてオンライン授業を強いられたことにより、その大切さを再認識した学生が多くなったことが大きい。

今回は、新型コロナウイルス禍の前後における顕著に表れた変化について、学生への調査を通して考察・検討した。新型コロナ禍は、未だ終息してはいない。今後は新型コロナと共生していく方向へ進むかもしれないが、学生への変化について検証を進めたい。

#### 謝辞

本稿の執筆にあたり、専修大学の本田竜広氏から貴重な助言をいただきました。

この場をお借りして、感謝申し上げます。

### 参考文献

- 「入学等に関する調査集計（R4）」、長崎県立大学、令和4年10月20日 全学入試委員会資料  
「令和2年度学生生活調査」（日本学生支援機構）  
[https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_chosa/2020.html](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2020.html)（参照2022.11.18）  
「平成30年度学生生活調査」（日本学生支援機構）  
[https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_chosa/2018.html](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2018.html)（参照2022.11.18）  
「第16回学生生活実態調査集計報告書」（日本私立大学連盟）  
[https://www.shidairen.or.jp/topics\\_details/id=3488](https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3488)（参照2022.11.18）  
「私立大学学生生活白書2018」（日本私立大学連盟）  
[https://www.shidairen.or.jp/topics\\_details/id=2040](https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2040)（参照2022/11/18）  
「私立大学学生生活白書2014」（日本私立大学連盟）  
[https://www.shidairen.or.jp/topics\\_details/id=2040](https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2040)（参照2022/11/18）